

「福島原発による人的影響」について（お知らせ）

東日本大震災に見舞われた東京電力福島第1原発の事故を受けて、人的影響についてお知らせします。

■「避難圏」について

避難圏の範囲は、予想される放射線の強さを基に決めます。現在出されている避難指示は、福島第一原発から半径20キロメートル圏です。

■「避難」・「屋内退避」について

政府の原子力委員会が定める指針は、健康への深刻な影響が懸念される50ミリ・シーベルトの汚染が予想される範囲を目安に「避難」の指示を出し、10～50ミリ・シーベルトを目安に「屋内退避」の指示を出すことになっています。

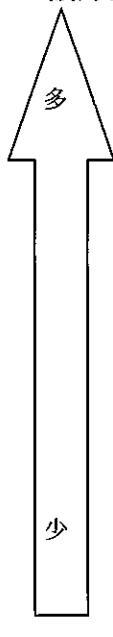
■「避難指示」について

文部科学省は、今回の事故で原発内の放射性物質がすべて放出された場合、周辺にどの程度の汚染が広がるかについて予測した結果、汚染が50ミリ・シーベルトとなるのは半径数キロメートルの範囲内に収まると予測しました。

■「指示に従っていれば大丈夫」

当初、半径10キロだった避難範囲が15日午前、半径20キロに広げられたことについて、元原子力安全委員は、「今回の事故の規模からみれば、原発から半径10キロメートル以内の避難が行なわれていれば、健康被害は心配ない。住民の安心をより重視した結果だろう」と分析しています。また、元原子力委員は、「放射性物質が避難範囲を超えて、広く拡散することはいうるが、指示に従って避難すれば、健康影響は心配ない」とコメントしています。

■「被爆量と健康への影響の目安」について

 多 少	被ばく量	被ばくの要因	備考
	6～20 シーベルト	JOC 事故で死亡した作業員2人の被ばく量	
	6～7 シーベルト	これ以上の線量では99%以上死亡	
	250 ミリ・シーベルト	白血球の一時的減少	これ以上の被ばく量で急性障害
	50 ミリ・シーベルト	原発作業員など1年間の被ばく限度	
	6, 9 ミリ・シーベルト	1回の胸部CTスキャン	
	1 ミリ・シーベルト	一般人の1年間の被ばく限度	
	50 マイクロ・シーベルト	胸部エックス線集団検診	

※ 1 シーベルトの1000分の1が1ミリ・シーベルト。

1 シーベルトの1000分の1のさらに1000分の1が1マイクロ・シーベルト。